

## 留学を終えて

岐山高等学校 内藤 日香（カナダ）

私は、高校2年生の8月からカナダ、ノバスコシア州のブリッジウォーターという街にある公立高校におよそ1年間留学しました。カナダのほとんどの高校は9月から新学期が始まります。私は高校に通う前に少しでも英語力を身に付けるために1ヶ月早めにカナダにわたり、語学学校に通いました。カナダでの生活を始めて1ヶ月、私はとても充実した生活を送っていました。語学学校に通う多くの生徒は、みんな英語を第一言語としてない人ばかりでした。そのため、私の拙い英語でも理解しようとしてくれ、友達もすぐにできました。留学前、インターネットや知人から留学について聞くと、初めの3ヶ月は辛いという声をよく耳にしていました。しかし、渡航して1ヶ月目の私はそんな話は自分には関係のないことだと思っていました。

そして、1ヶ月があっという間に過ぎ9月になりました。私が通っていた語学学校と私が通う高校は違う街にあったため、初めのホストファミリーと別れ、新しいホームステイ先に移動しました。新学期初日、私はとても緊張していました。私にとっては全てが新しく珍しいものでした。まず、学校の扉を開けると生徒たちが授業が始まるまでの間立ち話をしています。とにかく、日本の高校とは空気感が違い、なぜか急に怖い、と思いました。私は日本で、人と話すことが好きで、コミュニケーションをとるのは得意でした。だから自分ならカナダに行ってもすぐに友達を作ることができるという自信がありました。しかし、現地の高校生を目の前にして私は怖気付き、1日中ビクビクしていました。自分が想像していた“初日”とのギャップが大き過ぎて私は一気に自信をなくし、自分の弱さを実感しました。

しかし、このままでは1年間無駄にしてしまうと思い、一週間ごとに自分でゴールを決めるようにしました。カナダでは、留学生は珍しくなく、誰も話しかけてはくれません。だから自分から仲良くなれるように努力しなければなりません。一週間目の目標は1日のうちに誰でもいいから5人と話すというものにしました。一週間、クラスの子に積極的に自分から話しかけるようにしました。私は日本にいるときは、自分の英語力にある程度自信がありました。しかし、今思い返してみると私の英語は現地の人からすると本当に何を言っているのかわからない程度だったと思います。もちろん、私が一生懸命話しかけても私の英語力をバカにしたり、あまり仲良くしてくれない子もいました。しかし、そんな中、私の聞き取りにくい英語を一生懸命理解し、仲良くなろうとしてくれた子がたくさんいて、その子達と関わることが私のモチベーションになっていきました。

学校が始まって二週間目に入った頃、初めのセメスターで私がとっていた地理の授業でドイツ人の女の子が私に興味を持ち、話しかけてくれました。カナダの高校生活が始まってから初めて話しかけてくれた人でした。その子との出会いが私の留学生活の大きな転機となりました。毎日同じ授業を受け、学校外でも放課後に出かけ一緒に過ごす時間が増えていくうちに自然と仲良くなっていきました。初めはその子と話す時も、私は自分の英語力に自信が持てずいつも彼女の話の聞いているばかりでした。話しても返しがなかなか返ってこない、会話もまともにできない私に対して、友人は一切私のことを否定することなく一緒にいてくれました。会話がやっと成り立つようになってきた頃、一度その友人に初めの私の印象を聞いてみたことが

ありました。すると友人は、「初めてあなたを見た時すごく明るそうな子だと思って話しかけてみた。そしたら、反応がすごく可愛くてもっと話してみたいと思った。あなたは英語が今のようには話せなかったから正直少し気まずい時もあった。でも、話せなくても一生懸命挑戦している姿や、ポジティブな性格にどんどん惹かれていったんだよ。」この言葉を聞いた時、私はこんな素敵な友人に出会えて自分は本当に幸せだなと心がとても温くなりました。このことがきっかけとなり、自分にさらに自信がつきどんどん話す回数も増えていきました。また、初めは間違えるということを恥ずかしいと思っていた私でしたが、間違えても話さないよりましだと考えられるようになりました。

そして、自信をつけた私はなんでも挑戦しようと思い、高校のラグビー部に所属しました。私はラグビーを一度もしたことがなかっただけでなく、ルールすらも知りませんでした。ラグビー部に入ることになったきっかけは、仲良くなり始めていた友達がみんなラグビー部に所属しており、その子達が誘ってくれて、とにかく友達を作りたいかった、新しいことをしたかったからです。そんな安易な理由で入った私をチームメイトは歓迎してくれました。英語の指示があまり理解できない私をチームメイトがお手本を見せてくれたり、コーチができるだけ簡単な単語を使ってわかりやすく何度も説明してくれたおかげでラグビーが大好きになりました。部活動に参加したことで英語で話す機会が一段と増え、私の英語力も向上していきました。もちろん、英語力もそうですが、この1年間でたくさんの人と関わり、助け合い、いろいろな発見をし、たくさん悩みました。いつも楽な瞬間ばかりではなく、本当に辛くてたくさん泣いたりもしました。しかし、そんな辛いことや失敗があったからこそ、よりたくさん愛を感じることができ、人との繋がり大切さ、人を思いやることの大切さを実感することができたと思います。私はこの留学で私に関わってくれた全ての人に心の底から感謝しています。この1年間の高校留学は私の人生の宝物です。



